

# 看護 青い森

vol.  
**110**  
発行日  
2021. 12. 3

## INDEX

- 第50回記念 青森県看護学会
- オリンピックボランティア活動
- 看護の標語
- 職能委員会コーナー
- ファースト・セカンド開講
- 特定行為研修を修了して
- 支部だより

令和3年度 会員数 8,689人 (昨年10月比 -27人) (令和3年11月15日現在)	保健師 247人 昨年10月比 -8人	助産師 322人 昨年10月比 ±0人	看護師 7,768人 昨年10月比 -8人	准看護師 352人 昨年10月比 -11人
--	------------------------	------------------------	--------------------------	--------------------------

# 危機の時代の看護

## 第50回記念 青森県看護学会開催



青森県看護協会会長

樋谷京子

### 第50回記念 青森県看護学会を終えて

去る10月2日に第50回記念青森県看護学会が無事に終了いたしました。

本来ならば参集での開催を予定しておりましたが、コロナ禍のため初めての全面リモートによる学会となりました。それにもかかわらず多くの方々にご参加くださりまして深く感謝申し上げます。また、困難な状況の中でご協力いただいた特別講演、シンポジウム、研究発表、示説発表の皆様にご心より御礼申し上げます。

本学会は第1回から半世紀が経ち、ここまで継続して開催することができたのは諸先輩方のご尽力の賜物と感謝申し上げます。50回記念という特別の意味をもった学会ではコロナ禍での運営や発表方法などいくつかの課題も把握することができました。そして何よりも新たな挑戦となり学会の方向性を確認できたことは大きな収穫になりました。

50年前の1969(昭和44)年はアポロ11号が人類初の月面着陸に成功、その前年は十勝沖地震があり、当時産声を上げた方は50歳です。この間の本会の実績を考えたとき、看護

学会としての足跡はしっかりと刻まれており、若い会員の方々にも本学会の歴史について是非知っていただきたいと思ひます。

本会は3つの使命の一つに看護領域の開発と展開を挙げています。本学会が人々の健康の保持増進に一層の貢献ができるように、県民の期待にこたえていく必要があり、自らの実践を研究へと展開する場として学会を盛り上げていただきたいと思ひます。

難しい企画運営等一心に動いてくださった学会委員の方々、達成感があつたのではないのでしょうか。心から感謝申し上げます。また本会職員にも労いとお礼を伝えたいと思ひます。

私たちはこの様な機会でなければ学べないことも多くあります。禍福はあざなえる縄のごとし、この機会を好機ととらえ次の50年に向けて共に邁進しましょう。引き続き会員の皆様のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 初のWeb開催！「第50回記念 青森県看護学会」



特別講演講師 上泉学長

令和3年10月2日(土)に「危機の時代の看護」をメインテーマとし青森県看護学会が開催されました。当学会は第50回という節目の大会となります。当初は規模を拡大しての開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の対応により規模を縮小しての開催とし、会員の皆様には県内各地からリモートで参加していただきました。

今回は青森県立保健大学理事長・学長の上泉和子氏を特別講演の講師に迎え、「COVID-19未知なる脅威と向き合つて～改めて看護の力を～」と題してご講演いただきました。

COVID-19の感染拡大は収まるところを知らず、人間が築き上げた叡智を試すかのよ

うに、あの手この手と変幻自在に人間に挑戦してくるが、これと向き合うことで改めて看護の力を考える機会となったことを強く感じ、この経験をしなければ気づかなかったことを知り、変わるべきところが浮き彫りになったことで、自分たちが大事にしたいことを認識できるいい機会であつたとお話しされました。

また「転んでもただでは起きない」ということわざから、私たちが苦勞したこの経験を、単なる経験談や美談にしたり、賞賛やエールの対象で終わらせたりしてはならないこと。そして、経験から看護の知識へと積み上げていくことが大事であるご講演いただきました。

上泉氏のお話は、日々新型コロナウイルス感染症と向き合っている私たちにとって、危機の時代における看護の力について深く考える機会となり、心に響く講演となりました。



上泉和子 学長・樋谷 会長

# 第50回記念 青森県看護学会

メインテーマ「危機の時代の看護」

特別講演

「COVID-19 未知なる脅威と向き合つて  
改めて看護の力を」

講師 青森県立保健大学 学長 上泉 和子 氏

シンポジウム

「看護職は危機の時代と

どのように向き合つていくか」

赤平 恵美 氏  
井瀧 千恵子 氏  
藤苗 伸郎 氏

特別講演の後、15題の口演発表が、音声付スライドを用いて行われました。口演では、訪問看護、認知症、終末期看護など、実践に根差した有用性の高い題材が多く、今後の看護実践につながる多くの学びを得ることができました。

午後のシンポジウムでは「看護職は危機の時代とどのように向き合っていくか」をテーマに、4名のシンポジストが発表されました。

青森県立中央病院 感染管理認定看護師 赤平恵美氏は、様々な「危機」に直面してきた経験から、危機の時代を乗り切る術—すべては「基本」にあること。標準予防策を標準化・習慣化し個々の精度を向上させられるかで危機を乗り越えるか否かが決まることから平時から備えることの重要性を話していました。

黒石病院 看護局長 工藤由紀子氏は、昨年10月弘前管内での新型コロナウイルスによるクラスター発生に伴い、看護職11名が出勤困難となり、他施設からの看護師派遣を受け入れた経験から、その場で慌てることのないよう、報道で情報を得ながら、自施設ならどのような対応ができるのか事前に考え、イメージすることが大切であることや、平時から感染管理に対する教育やスキルアップもしていかなければならないことを話されました。

弘前大学医学部附属病院 看護部長 井瀧千恵子氏は、原子力災害・被ばく医療に取り組んでいます。東京電力福島第一原子力発電所事故から10年が経過し奇しくも10年間で原子力災害とCOVID-19対応を経験することになってしまったこの時代を生きる看護師としての役割について話されました。原子力関連施設が多い青森県の看護師だからこそ、目に見えないものへの対応がいつでもできるよう日々考え、備えていくことが大切であると話していました。

青森県危機管理局 藤苗伸郎氏は、本県で発生した災害や今後想定される災害等に対する県の取り組みと、平時の取り組みなどについて話されました。県内で人的被害のある災害が起きていないのは単なる偶然であること。平時より防災意識をもち、災害への備えをすることが大切であると話され、青森県防災ハンドブック「あもり おまもり手帳」を紹介されました。

最後の意見交換では、避難所の対応や今後の新型コロナウイルス感染症対応について質問が多くありました。様々な危機に対応してきたシンポジストの方々には共通して、正しい情報や知識を得ること、基本となる対策は身につけていなければ対応できないため、習慣化することが重要であると話していました。

新型コロナウイルス感染症については、まだまだ先の見えない状況が続いていますが、シンポジウムを通し、専門職として知識・技術・組織力を発揮するための術を学ぶ機会となりました。

第50回という記念すべき青森県看護学会を、リモートで開催し、音声付スライドを用いる等、今までにない形態で行われたことに、新たな様式と時代の変化を感じました。また、厳しい状況にもかかわらず県内各地からリモート参加してくださった皆様に心より感謝いたします。

記：広報出版委員(公立七戸病院) 山本香奈子



赤平 恵美 氏



工藤由紀子 氏



井瀧千恵子 氏



藤苗 伸郎 氏



座長 山内留美子 氏

## 第50回記念 青森県看護学会を終えて

看護職がこれほど必要とされる時代に、記念すべき第50回の学会を開催することができました。メインテーマは「危機の時代の看護」で、感染対策のうえりモートでの開催とさせていただきました。

特別講演は青森県立保健大学学長の上泉和子氏により「COVID-19未知なる脅威と向き合って～改めて看護の力を～」、シンポジウムは「看護職は危機の時代とどう向き合っていくか」というテーマで、青森県立中央病院感染管理認定看護師赤平恵美氏、黒石病院看護局長 工藤由紀子氏、弘前大学医学部附属病院看護部長井瀧千恵子氏、青森県危機管理局防災危機管理課危機管理対策グループマネージャー 蒔苗伸郎氏がシンポジストでした。

発表演題は口演15席、示説13席（うち5席は第49回紙上発表）。すべてから大きな力をいただいた学会でした。危機の時代に力を合わせて模索し、さらに必要とされる看護職となるために、今後も研究を積み重ね知の構築をしていきたいと思えます。



青森県看護協会 学会委員長  
大瀬 富士子氏

### 『第50回』という節目の年を迎えて(青森県看護学会の歴史)

『50』という切りのいい回数を迎えるにあたり、学会の歴史を調べました。実は、学会誌は第1回から10年毎に立派な表紙を付けて合本しています。

第1回は1969（昭和44）年10月12日（日）、青森市本町の農業会館6階ホールで「看護研究学会」として開催された、とあります。日本看護協会保健婦会・助産婦会・看護婦会青森県支部、日本精神科看護協会青森県支部の共催による開催でした。

翌年には「総合看護研究学会」に名称変更され、第5回（1975年）開催時には、社団法人青森県看護協議会と日本看護協会青森県支部協議会との共催になりました。

第7回（1977年）からは、「看護学会」に名称変更され、第9回（1979年）は唯一八戸市で開催、第10回（1981年）以降は、欠かさず毎年開催しています。また、第3回からは、県内外の多彩な講師を迎え、講演も行われています。

第22回（1993年）からは、社団法人青森県看護協会の主催となり、この年の7月に広報誌「看護青い森」が創刊されました。

運営本部を県民福祉プラザに移転した1998年（第27回）はホテル青森を会場に「変革・時代を拓く看護」をテーマに当時、聖路加国際病院副院長・看護部長の井部俊子氏を講師に迎え開催しています。第30回（2001年）から、口演発表に加え示説

発表も行われる現在の形になりました。

第36回（2007年）学会は、看護協会の創立60周年記念式典と同時に開催され、当時の日本看護協会会長久常節子氏を講師に迎え、参加者およそ1,000名と記録されています。

第41回（2012年）は第17回日本看護サミット'12（10/18～19開催）と同年開催し、2013年からは公益社団法人となり、第45回（2016年）には、第47回日本看護学会精神看護学術集会（9/15～16）と同年開催しました。

会員の皆様のご支援、ご協力で、この間も参加者は600～800名を数え、盛況のうちに開催してきました。

そして、第49回、COVID-19の影響を受け、長い歴史の中で、初めて青森・八戸の2か所をZoomでつないでの開催となりました（顛末記は、『広報看護青い森』108号、2021.1.15発をご覧ください）。参加者は299名でした。

これらは、先にお話した立派な表紙の合本から得た情報です。毎年つくられる学会誌には、貴重な情報が散りばめられていますが、上質とはいえ普通紙です。そんな学会誌を10年毎に合本し保存しようとした先輩方の知恵に完敗（乾杯）です。

記：青森県看護協会 教育研修課長 岸田 公子

# アスリートの舞台で看護のプロとして

7月28～30日、メディカルスタッフとして、宮城スタジアムと仙台ユアテックスタジアムに行ってきました。宮城スタジアムではコートジボワール対ドイツ戦のサッカーの試合、仙台ユアテックスタジアムではブラジルとスペインのサッカーチームの練習が行われ、私は医務室に配置され活動してきました。

7月下旬で気温も高かったため、宮城スタジアムでは頭痛や倦怠感を訴える観客が数名医務室を訪れましたが、水



セミの鳴き声とともにちょっと一息

分摂取や鎮痛剤の内服、点滴などで症状が改善され、無事に観客席に戻っていかれました。練習会場の方はプロというだけあり、怪我も体調不良もなく医務室を訪れる方はいませんでした。

今回、本当に貴重な体験をさせていただいた中で実感したことは、感染対策やフィジカルアセスメントがいかなる場面でも基本であり、重要であるということです。

看護師としてどんな場面でも役割を果たし、力を発揮できるように、トレーニングを重ねておく必要があると思いました。



宮城スタジアム医務室にて

記：八戸市立市民病院 原 美樹

## 【看護の標語】

# 最優秀賞は「未来へと命を繋ぐ看護の手」に決定しました。

県内の中学校から募集をしていた【看護の標語】について、厳正なる審査の結果最優秀賞1作品 優秀賞2作品 佳作10作品が決定しました。

とても素敵な標語に感動 (\*´ω`\*)

上位3作品は、ポスターや封筒（裏面）を作成、県内の小・中・高校などに送付しています。



### 最優秀賞

未来へと 命を繋ぐ 看護の手

### 優秀賞

看護師は 笑顔を作る アーティスト  
気を張れど 優しい笑顔 つらぬく看護

### 佳作

この町の 笑顔を看護で 守りぬく  
「人を見る」手を看て顔看て 未来みる  
看護師は 患者の笑顔 とりもどす  
お大事に その言葉が 特効薬  
家事こなし 夜勤に向かう 母はナース  
看護師の「だいじょうぶだ」が勇気の道  
人々の 笑顔をつくる 看護職  
あせった時ほど冷静に チームプレイで安全行動  
ありがとう 看護で生まれる 笑顔の言葉  
かっこいい 看護師わたしも なれるかな



### 取材してきました

最優秀賞作品を応募いただいた青森市立甲田中学校にて、授賞式を行いました。受賞した福士 華音さんは「まさか自分が受賞できるとは思っていなかったので、とてもうれしいです」と喜びを語ってくれました。



# 保健師職能委員会コーナー

## 看護協会に関するアンケートの結果概要について(報告)

先般、保健師職能委員会で実施したアンケート調査ではコロナ禍でお忙しい中、300人以上の方にご回答をいただきありがとうございました。結果の詳細については今後お知らせしていく予定ですが、今回は結果の概要についてご報告いたします。

調査では保健師職の看護協会の認知度や要望を把握することを目的に、県内の保健師603名を対象に郵送調査で実施しました。回収率は53.9%で、321名の方にご回答いただきました。

看護協会に加入していない理由としては「年会費が高いから」が最も高く、次に高い「保健師に関する研修会が少ないから」と合わせると47.7%となりました。看護協会に加入している理由としては「現在の職場で加入を勧められたから」が32.4%と最も高く、次いで「専門職は職能団体を形成するから」「前職(看護師・助産師)から継続して加入しているから」など

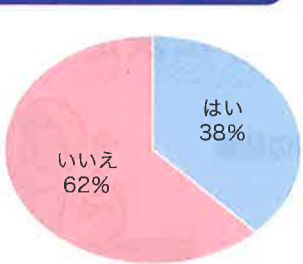
の回答がありました。また、保健師の臨床研修の参加の有無については、「参加したい」が32.4%、「どちらともいえない」が40.8%、「参加したくない」が24.3%という結果でした。

回答結果について一部以下に掲載しておりますので、ご覧ください。

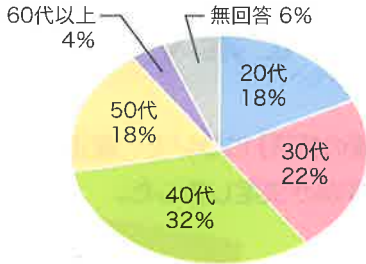
また、自由記載の“保健師活動の中で困っていることや不安なことはありますか?”や“看護協会に対する要望等”という設問には、実に多くのご意見が寄せられました。

今回の調査では、看護協会や保健師職能委員会に対する要望をいただいた半面、新型コロナウイルス感染症対策による業務の増大や行政の中の専門職としての葛藤、縦割りの事業の中で孤立化している保健師の現状や課題が窺われました。保健師職能委員会では、これらの要望や課題を踏まえ今後の事業計画に生かしていきます。

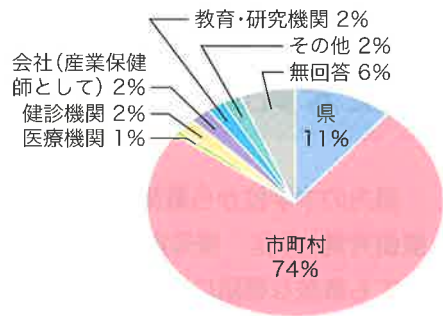
アンケート結果(一部抜粋)



看護協会加入の有無



年代別



所属機関

記：保健師職能委員(南部町健康センター) 佐藤 恭子

# 助産師職能委員会コーナー

## 産後ケア事業推進交流会を開催しました

9月10日に産後ケア事業推進交流会を助産師職能委員会・保健師職能委員会合同企画でリモートにて開催しました。諏訪赤十字病院師長の三輪恵美氏を講師に「医療機関における産後ケア事業」と題して、母子のための地域包括ケアシステムの体制整備や地域との連携について、また産後ケア事業での医療機関の役割やこれまでの実績、今後の課題などを講演していただきました。

医療機関での産後ケアをすでに実施している諏訪赤十字病院の取組は今後、青森県でこの事業をすすめていく上で具体的なイメージや課題について考える貴重な機会とな

りました。

また、青森県子どもみらい課から現状と課題について、助産師会会長の福井りみ子氏より産後ケアにおける助産師の役割について情報提供があり、そのあと参加者での意見交換会を実施しました。コロナ禍であり、リモートでの開催となりましたが、意見交換会も活発に行われ、青森県における現状と課題を共有する事ができ、今後の産後ケア事業推進に向けての一步に繋がる有意義な交流会になったと思います。

記：助産師職能委員(弘前大学医学部附属病院) 古山 恵子

### 看護師職能委員会Ⅰ 報告

## 外来看護師の在宅療養支援に関する事例検討会を開催して

令和3年度看護師職能委員会Ⅰでは「在宅での生活を支援するための地域・外来・病棟の連携」をテーマに令和3年9月4日(土)に事例検討会をリモートで開催しました。

最初に、病院の連携室、病院、クリニックの3施設から実践報告をしてもらいました。外来から病棟、外来から地域へと看看連携の強化の重要性、壮年期における終末期の在宅への移行、透析の継続困難事例など、状況に応じて、スタッフが試行錯誤し、検討を重ね、その人がその人らしく治療を受け、地域で生活できるように支援している取り組みを行っていることがわかりました。

最後に、八戸学院大学健康医療学部看護学科教授壬生寿子氏から「在宅療養支援について」講演をしていただきました。外来の現状と課題、在宅療養支援に関わるICFの視点の重要性、現時点だけでなく、将来を考えることが大切であると教えていただきました。

検討会後のアンケートでは、「在宅療養に関して、訪問看護を担っている連携室看護師の役割と認識しているスタッフが多い。連携、外来、病棟の看護師同士、院内外の連携が十分とれる体制作りに取り組みたい」と、看看連携だけでなく他職種との連携の方法を再度見直す機会となりました。

今後は、看護師職能Ⅰ領域として外来看護師の業務改善や教育機会の提供など支援の方向性について企画検討中です。会員の皆様のご意見お待ちしております。

記：看護師職能Ⅰ 委員(三沢市立三沢病院) 蛭名 千絵

### 看護師職能委員会Ⅱ 報告

## ハラスメント研修

### ～訪問看護師が利用者・家族から受ける暴力に関する研修～

令和3年9月25日(土)に、「ハラスメント研修～訪問看護師が利用者・家族から受ける暴力に関する研修～」をリモートで開催いたしました。

日本看護協会参与であり弁護士でもある友納理緒氏より、「組織による安全管理体制の整備・推進」について、講演していただきました。

講演では、「患者・家族からの暴力等への対策をめぐる現状について」「暴力等への対策について」等、実際の裁判例も参考にお話しいただきました。また、安全管理体制の注意喚起として、訪問介護事業所での感染対策についてもお話がありました。

参加者からは、「セクシュアルハラスメントを受けた際に、家族にどのように伝えればよいのか」等、業務上での困りごとへの対応方法についての質問、そして友納氏からのアドバイスがあり、有意義な研修会となりました。

この研修会により、各事業所で暴力防止への体制が整えられ、看護職が安心して働くことができる職場づくりに繋がっていくことを願います。

今回の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、リモート研修となりましたが、皆様に有益となるような研修を企画して参りたいと思っております。今後とも、よろしく願いいたします。

記：看護師職能Ⅱ 委員長(個人会員) 吉田 冬子

## 2021年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル 及び青森認定看護管理者教育課程セカンドレベル 無事に閉講式を執り行いました!

令和3年度は、県民福祉プラザの大規模工事によりファーストレベルは例年より1月以上早い連休明けの5月6日に開講し、COVID-19の感染拡大のため、前例のない『ハイブリッド\*』で始まりました（※受講者84名のうち参集24名、Zoom受講60名、講師も登壇およびZoomの両方有り）。

いつかは集合できるかも…という淡い期待も裏切られ、結局6月28日の閉講式まで講義・演習全て『ハイブリッド』でした。研修会は全てのプログラムを無事に終了しましたが、今年度受講された方々の受講後の様子はいかがでしょう？開講中は、参集している方たちがおいてけぼり状態だったり、もちろんネットトラブル有り、発表資料がどこかに行っちゃったり、例年にも増して職員はトラブル対応に追われ、講義内容よりトラブル事案の残像ばかりになっていないことを願います。

さらに、研修会の醍醐味である『ファーストネットワーク』が作りづらかった、というよりできなかった。そこが一番気掛かりなところでした。

また、青森県立保健大学と協定を締結し開講した

「青森認定看護管理者教育課程セカンドレベル」も9月3日、プレゼンテーションを終え、全てのプログラムを無事に終了し閉講しました。こちらも2クール目からは、COVID-19感染拡大の影響によりZoomでの受講を希望する受講者数名に対応し『ハイブリッド』になりました。同じハイブリッドでもセカンドレベルは、1クール目で受講者同士の交流ができたので、十分効果的に運営できたと思います。

すっかり『ハイブリッド』談議になってしまいましたが、貴重な研修の機会を安全・安心に、効果的に運営するための対策を整えることが必要と考えさせられた研修会でした。

なお、受講者の皆さんから頂いたアンケートの結果等は、令和4年度通常総会要綱に掲載します。

最後に講師、演習支援、セカンドレベル実習施設の皆さま、青森県立保健大学の皆さま、専任教員のお二人、皆さんのおかげで何とか大事なく終了することができました。紙面を借りて改めて感謝いたします。

記：青森県看護協会 教育研修課長 岸田 公子

## 特定行為研修を修了して

当施設は他施設の医師の協力が不可欠で、看護師は様々な環境で看護している。

看護師は多様な臨床場面で迅速かつ科学的根拠に基づき包括的なアセスメント能力が必要とされ、治療を理解した上でケアを導く力が求められる。看護の質向上を目的に医師の協力もあり受講に至った。

現在、特定行為研修を修了した看護師は患者を見る視点に変化が見られ頼もしく感じている。今後も看護の質向上と看護実践の標準化を目指し、人材育成していきたい。

記：植村れい子

当施設では、受診患者や入院患者は高齢者が多く、日夜を問わず脱水に対する補正の必要性があるときや、夜間急変する患者も少なくない。

特定行為研修中は医師に治療の意図することなど相談でき、知識の再確認や医療行為の学びがあった。

また、研修後は患者の病態生理を多角的に捉えるようになりアセスメント能力の向上に繋がった。

今後は治療を理解し、ケアを導く看護実践をしていきたい。

記：三間 友美

## 平内中央病院





## 【新型コロナウイルスワクチン接種】研修会

厚生労働省の補助事業【新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種人材確保事業】として県内のワクチン接種業務希望の看護職を対象に、青森・弘前・八戸の3会場で研修を行いました。

### 研修内容 (DVD視聴+演習の2時間)

- ・新型コロナウイルス感染症に関する基礎知識
- ・新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関する基礎知識
- ・実技演習

### 参加人数

青森会場	弘前会場	八戸会場
28人	27人	20人



### 受講者の感想

- ・新人になったつもりで改めて勉強になった
- ・blankがあり不安だったが、実技もありイメージができた
- ・アナフィラキシーの対応のスライドもあり、わかりやすかった



## 新卒看護職カフェ

**開催日** 八戸会場 6月24日(木) 八戸プラザホテル  
弘前会場 7月21日(木) ホテルニューキャッスル弘前  
青森会場 7月28日(木) アートホテル青森

**内容** 新卒看護職と入職2年目の看護職が仲間との交流を通して日ごろ感じていること等について看護師等学校養成所教員を交え意見交換する

### 参加者数

八戸会場	弘前会場	青森会場
28名	12名	11名

参加者からは「他院の状況を知ることができ良かった」「悩んでいるのは自分だけではなかった」「先生や皆に話すことで気持ちが楽になった。明日から頑張れそう」という意見が多数寄せられました。



## 看護管理者と 看護師等学校養成所 教員との情報交換会

9月11日、済生会横浜東部病院特任院長補佐（元日本看護協会 常任理事）の熊谷雅美先生を講師に、県内病院看護管理者23名、看護師等学校養成所教員11名が参加しリモート開催しました。コロナ禍の学生や新人看護師育成のあり方など情報交換を行い、教育と臨床の現場が連携していくことの重要性が話し合われました。

# 支部だより

## 東青支部

### ワクワクしながらチャレンジ！

今年度、東青支部の活動では、役員会の会場探し（緊急対策による休館）や秋の研修会をリモート形式に変更するなど、短い時間で判断して対応しなければならない場面がたびたび出現しています。

その中でも、リモート研修への変更は大きな決断でした。当支部では初の試みであり、ひとつひとつ学びながらの開催となります。新しいことへのチャレンジはハードルが高く、日々手探り状態で準備を進めているところです。



役員会の一場面

本部のご指導とご協力のもと、今期の事業運営を滞りなく行えるように、役員一同がんばっていきます！

記：東青支部長 木村 香

## 中弘南黒支部

### 今後の活動予定!!

会員の皆様には常日頃から支部活動にご理解、ご協力いただき、本当に感謝しております。

秋の研修会は、コロナ第6波を考慮し、リモートでの開催となりました。11月27日（土）「新人看護師との関りを学ぶ…日々の悩みを打ち明けよう」と題し、現場と学生の実情を理解し、新人の離職防止に繋がりたいと考え、これからを担う新人看護師が離職せず元気に看護職を続けられるために参加を呼びかけました。

新型コロナウイルスの出現から2年が経過しようとしている今なお、私たちを苦しめています。人と人と



紅葉前の津軽富士

の繋がりはやはり対面での会話が大事だと痛感し、ある晴れた日、病院の窓から若木山にコロナ終息をお願いしました。

記：中弘南黒支部長 澤 恵

## 三八支部

### 八戸市健康パネル展開催！

例年、三八支部では健康まつりに参加し、地域の皆様の身体測定・血圧測定・健康相談を行い多くの方々と交流させて頂いておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大傾向で状況が落ち着かず、今年度も昨年同様、規模を大幅に縮小して、令和3年10月16日～20日、八戸ポータルミュージアムはっちにてパネル展示しました。

地域活動委員は、初のパネル展に向け準備をし、身体測定の目的と正しい測定方法のほかに素敵な看護の標語も紹介し、看護の仕事へ興味を持って頂けるよう若い世代にアピールしました。



展示したパネルです!!

記：地域活動庶務 佐藤美保子



## 西北五支部

### コロナに負けず一致団結

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、研修や事業等の変更もある状況下において、県看護協会では各支部におけるリモート環境整備を進めています。早速、9月9日の西北五支部第3回役員会はリモート会議で開催しました。各役員と関連施設のご理解とご協力の下、会議はスムーズに進み、多少の距離感を感じながらも笑いあいの有意義な会議となりました。

今年度秋の支部研修会は、西北五地区の在宅看護の現状と課題を共有し、各施設との連携を図ることを目



西北五支部役員会のひとこま

的としています。開催に向け役員一同一生懸命準備しています。  
記：西北五支部 笹森、長尾

## 下北支部

### コロナワクチン大規模接種

令和3年8月28日から、最終日9月26日まで土曜・日曜（9月11日と12日を除く）、むつ市の克雪ドームにおいてコロナワクチンの大規模接種が行われました。6月にむつ市長から看護協会長へ本接種に係る協会要請があり、看護協会から下北支部役員に協力の依頼がありました。それを受けて下北支部役員及び会員もワクチン準備、接種、経過観察など各担当に分かれ従事してきました。

病院・医院の垣根を越え、医療従事者が一丸となり希望される市民の皆様に対応できたことは感慨深いものがありました。2回接種された方は85%を越えたと伺っております。

ワクチン接種後も油断せず、私達医療従事者から率先して引き続き感染対策に努めてまいります。  
記：下北支部 高橋 善弘



接種会場入り口

## 上十三支部

### 上十三支部活動について

昨年度はコロナ禍にて感染対策が課題となり支部活動の縮小を余儀なくされました。そのため、今年度の介護ケア検討会はリモート開催へ変更し、企画しました。リモート開催は課題も多く大変ではありますが、青森県看護協会本部の担当者の方にご指導・ご助言を頂きながら役員一同協力して準備を進め、コロナ禍でも多くの会員に介護ケア検討会に参加いただきました。



リモートでの「看護ケア検討会」打ち合わせの様子

今後も社会の変化を推進力として活動の歩を進めていければと考えます。  
記：上十三支部 湯浅八代重

## 青森県読売会からマスクの寄付をいただきました

令和3年8月31日(火)に当協会事務局にて、青森県読売会からの寄付物品贈呈式を行いました。

読売会では、新規購読者紹介キャンペーンで集まった寄付金を基に毎年寄贈活動を行っており、今年は医療従事者を支援するため、当協会にN95マスク500枚とサージカルマスク6,000枚の寄付をいただきました。

マスクは、重点医療機関をはじめ、各施設へお配りいたします。



県読売会 足沢隆会長(左)から目録を受取る榎谷会長

## 救急医療功労者知事表彰受賞

令和3年9月9日の救急の日、八戸市立市民病院副看護局長 神田 新一 氏が救急医療功労者知事表彰を受賞されました。

神田氏は同病院において、長年、救急看護における看護の資質向上や教育に努められ、救急医療の発展に貢献されています。

この度の受賞を、心よりお慶び申し上げます。



#aomoriovation  
あomoriovation

## 青森県看護協会は「あおもりオベーション」を応援しています

青森県では、新型コロナウイルス感染症が長期化する中、「医療、介護、福祉、販売、物流など県民生活を最前線で支える方々への感謝」や「県民への理解促進」、「人権への配慮」等を目的とした「AomoriOvation(あおもりオベーション)」プロジェクトを推進しています。

9月からは、医療従事者を支える方のメッセージがテレビCMとして放送されました。動画がWebサイトに掲載されていますので、ぜひご覧ください。



【医療従事者 女性編】



【医療従事者 男性編】



「あおもりオベーション」Webサイト  
(<https://aomoriovation.jp/>)

## 青森県健康福祉部長との意見交換を行いました

令和3年7月16日(金)に、青森県健康福祉部長との意見交換を行いました。当協会からは会長、第一副会長、専務理事および常務理事2名の5名が県庁を訪れ、以下の内容について、それぞれの現状と課題、そして取組状況を説明し、健康福祉部へさらなる協力をお願いいたしました。

1. 訪問看護総合支援センター(仮)の設置について
2. 保健医療福祉分野への感染対策について
  - (1)多くの病院への感染管理認定看護師(ICN)の配置
  - (2)保健師の感染症対策に関する知識・技術の向上

## 令和3年度執行役員等研修会を開催しました

令和3年11月2日(火)に当協会の監事である税理士法人NAVIS代表社員若山恵佐雄氏を講師とし、「令和3年度執行役員等研修会」を開催しました。研修は協会役員等が参加し、職員に対する人事評価の重要性や協会の財務・給与などについて詳しく説明を受けました。今後も協会として職員の質向上のための体制づくりに注力していきたいと思っております。



講師の若山監事

## お詫び

この度、「看護 青い森」の発行が諸般の事情により大幅に遅れてしまい、会員のみなさまはじめ関係者の皆さまにご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。

1月号は1月15日の発行を予定しておりますので、何卒よろしくお願いたします。

(青森県看護協会 運営本部)

室内浮遊菌  
浮遊ウイルスへの  
対策

イオンレス™(次亜塩素酸水)  
**シーエルフライン®**

室内噴霧による  
浮遊菌除菌、浮遊ウイルス減少  
付着菌除菌、付着ウイルスの減少  
ドアノブ、手すり、壁や窓など  
手の触れるところに

(資料請求先)

販売  
ニプロ株式会社  
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

2021年5月